



2024年7月26日

日本鉄道労働組合連合会

ジェイアール・イーストユニオン第12回定期大会

新体制のもと、すべての仲間で運動を実践し、JREユニオンへの結集を



ジェイアール・イーストユニオン（以下、JREユニオン）は7月13日、東京都内において第12回定期大会を開催し、2024年度の運動方針を満場一致で決定するとともに、小林徹志氏を中央執行委員長とする新執行体制を確立した。本大会では、2014年5月の結成以来、中央執行委員長を務めてきた菅野一位氏（JR連合副会長）が退任し、国鉄採用世代からJR採用世代への世代交代を図った節目の大会となった。

冒頭、挨拶に立った菅野中央執行委員長は、「JREユニオンを結成して10年。JR東労組は瓦解したものの、現在は社友会を軸とした労務政策の中、JR東日本における組合活動は苦しい状況に追い込まれている」との危機感を露わにし、「エルダー組合員が大半の組織となったが、エルダー組合員でも何が出来るかを個々が考えて欲しい」と呼び掛け、「次代に繋ぐ組織強化・拡大を図っていく」と決意を述べた。

JR連合からは荻山市朗会長と相良夏樹組織局長が参加した。代表して挨拶に立った荻山会長は、JR東日本における社友会を通じた労働組合に抛らない労務管理に対して警鐘を鳴らし、集团的労使関係のあり方についても議論がなされている厚生労働省「労働基準関係法制研究会」の動向を注視するとともに、労働組合の重要性を喚起する取り組みを展開していく旨を述べた。併せてJREユニオンには時間的余裕がないと指摘の上、大胆な形での組織拡大・総結集が不可欠だと呼び掛けた。



続いて菅井正和事務局長による経過等の報告、2024年度運動方針等の提起があり、質疑ではこれらに対し、全地方本部・4名の代議員から発言があった。とりわけ組織課題に関しては、社友会とのコミュニケーションを重視するJR東日本の姿勢に懸念が示されたほか、JREユニオンの置かれている現状から組織拡大については結果を求めていかなければならないとの強い決意表明もなされた。

執行部の中間答弁、菅井事務局長の集約答弁を経て、全ての議案は満場一致で可決された。その後、役員改選が行われ、前述の通り、小林中央執行委員長や高橋佳昌事務局長らJR世代が中心となる新執行体制を確立した。最後は小林中央執行委員長が初めての団結がんばろうで大会を締めくくり、新生JREユニオンの運動をスタートさせた。

2024年度新執行部（三役）

役職	氏名	備考
中央執行委員長	小林徹志	写真右
中央執行副委員長	菅野一位	委員長退任
中央執行副委員長	国井道德	再任
中央執行副委員長	齋藤勝彦	再任
中央執行副委員長	菅井正和	事務局長退任
事務局長	高橋佳昌	写真左